

# 特集

## 脂質異常症と下部尿路症状

榊永浩一

東京都健康長寿医療センター泌尿器科

**Key Words** 脂質異常症, 下部尿路症状 (LUTS), 生活習慣, 薬物治療, スタチン製剤

脂質異常症はメタボリック症候群の一病態であり、動脈硬化症に基づく脳血管疾患や虚血性心疾患の原因となるため、その危険因子数にて4段階にリスク分類され、それぞれの脂質管理目標に向けて生活習慣の改善、薬物治療が行われている。近年では、脂質異常症と下部尿路症状 (lower urinary tract symptoms ; LUTS) の関連性が指摘されるようになり、また、脂質異常症治療薬が LUTS を改善するという報告がある。本稿では、脂質異常症と LUTS の関連性について若干の文献を交えて考察する。

### はじめに

脂質異常症は、従来、高脂血症と呼ばれていたものに低 HDL コレステロール血症を含めた病態を指し、2007年に日本動脈硬化学会より提言された<sup>1)</sup>。厚生労働省が3年ごとに実施している「患者調査」では、その総患者数は2011年には188.6万人<sup>2)</sup>、2014年には206.6万人<sup>3)</sup>と増加しており、男女比は1:2.5と女性に多い傾向にある。脂質異常症は、糖尿病や高血圧症と並んでメタボリック症候群を形成する一病態であり、全身の動脈硬化をきたし、

脳卒中や心筋梗塞などの心血管系疾患を増加させることは以前より注目されてきたが、最近では脂質異常症と下部尿路症状 (lower urinary tract symptoms ; LUTS) の関連性についてクローズアップされてきている。

### 脂質異常症について

脂質異常症は、血中の LDL コレステロールやトリグリセライド (TG) が高い高脂血症と低 HDL コレステロール血症の総称であり、『動脈硬化性疾

Koichi Masunaga (医長)